

2020年度 寺山公園子育て交流施設「いーてらす」利用状況報告書

1. 年間利用者総数 100,118 人
 前年度 153,424 人 前年度比(100) 65.3 % 53,306 人減
 平成30年4月8日開館以来の延来館者数 433,667 人
 年間総開館日数 281 日 1日平均利用者数 356.3 人

曜日別利用状況

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜・祝日	計
0歳児～小学3年生	5,797	5,155	0	5,655	5,456	11,685	18,393	52,141
小学4年生以上	26	13	0	23	18	102	263	445
保護者等	5,110	4,602	0	5,115	4,903	10,479	16,866	47,075
ボランティア	18	2	0	6	2	26	15	69
見学	6	31	0	8	20	5	16	86
団体	91	79	0	44	78	10	0	302
合計	11,048	9,882	0	10,851	10,477	22,307	35,553	100,118
日数	43	44	0	45	46	46	57	281
1日平均人数	256.9	224.6	0.0	241.1	227.8	484.9	623.7	356.3
利用者構成比	11.0	9.9	0.0	10.8	10.5	22.3	35.5	100.0

2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		15	11	26	26	27	25	27	26	24	24	24	26	281	
利用者数	0～小3	計	764	1,053	2,983	4,496	5,065	5,626	6,025	6,316	4,236	2,727	6,202	6,648	52,141
		1日平均	50.9	95.7	114.7	172.9	187.6	225.0	223.1	242.9	176.5	113.6	258.4	255.7	185.6
	小学4年生以上	計	15	10	28	45	46	52	46	46	30	15	38	74	445
		1日平均	1.0	0.9	1.1	1.7	1.7	2.1	1.7	1.8	1.3	0.6	1.6	2.8	1.6
	保護者等	計	660	1,050	2,828	4,069	4,512	5,099	5,432	5,781	3,644	2,432	5,687	5,881	47,075
		1日平均	44.0	95.5	108.8	156.5	167.1	204.0	201.2	222.3	151.8	101.3	237.0	226.2	167.5
	ボランティア	計	0	0	2	6	20	6	12	12	2	0	4	5	69
		1日平均	0.0	0.0	0.1	0.2	0.7	0.2	0.4	0.5	0.1	0.0	0.2	0.2	0.4
	見学	計	4	0	6	3	13	14	7	18	12	3	3	3	86
		1日平均	0.3	0.0	0.2	0.1	0.5	0.6	0.3	0.7	0.5	0.1	0.1	0.1	0.3
	団体	計	0	12	0	70	0	71	48	47	0	10	21	23	302
		1日平均	0.0	1.1	0.0	2.7	0.0	2.8	1.8	1.8	0.0	0.4	0.9	0.9	1.1
	合計	計	1,443	2,125	5,847	8,689	9,656	10,868	11,570	12,220	7,924	5,187	11,955	12,634	100,118
		1日平均	96.2	193.2	224.9	334.2	357.6	434.7	428.5	470.0	330.2	216.1	498.1	485.9	356.3

新規登録世帯数 1日平均 / 9.6世帯

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録世帯数	47	76	180	213	276	301	365	365	147	115	246	364	2,695

利用者登録世帯数 (2020/4/1～2021/3/31)

登録世帯	東区	中央区	北区	秋葉区	西区	南区	西蒲区	江南区	新潟市外	県外	合計
登録世帯数	797	640	211	121	324	44	13	200	290	55	2,695
割合	29.6%	23.7%	7.8%	4.5%	12.0%	1.6%	0.5%	7.4%	10.8%	2.0%	100.0%

年間運営総括及び来期への課題

・新型コロナウイルス感染症への対策をはじめ、安心と安全を第一とした運営を心掛けた。昨年度3月は感染拡大防止のため1か月間臨時休館となった。4月1日(水)より一時開館再開となったが、4月19日(日)から再び1か月間の臨時休館を経験した。

・休館の間は、これまで忙しさで手が回らなかった大掃除や遊具、玩具の点検等、開館に向けた環境整備や感染症対策の準備等に取り組んだ。普段はなかなか出来ない大掛かりな製作にも取り掛かることが出来た。その他、休館中も利用者に施設との繋がりを感じてもらえるよう、SNSを活用して職員によるお楽しみ動画の投稿等を行った。施設に来ることの出来ない利用者へ何が出来るか、職員一同思いを巡らせながら工夫を続けた日々だった。来期もホームページやSNS等を活用し、来館出来ない間も利用者が施設を身近に感じられるような取り組みを充実させていきたい。

・4月以降の利用者数は昨年度に比べると減少したものの、コロナの感染状況が落ち着くにつれて利用者数も徐々に戻っていった。一時保育の利用についても同様で、今期の初めはコロナ禍で利用を控えている親子が多いようだったが、徐々に申し込みが増えていった。秋頃からは昨年度とほぼ変わらない実施件数だった。週末は例年のような賑わいが見られた日もあった。館内の消毒や換気、距離の確保についてのアナウンス等、日々感染症対策を行った。滞在時間の短縮を呼びかけたり、場合によっては入場制限をかけたりしながら対応にあたった。他施設との情報交換や行政との情報共有、連携を図り、来期も状況に応じた感染症対策を続けていきたいと思う。

・新型コロナウイルス感染症の流行は子育て家庭にとってもかなり影響が大きく、臨時休館を経て開館した際は、0歳児を連れた母親達が交流を求めて来館する姿が多く見られた。母親達からは「出産してすぐにコロナ禍となりずっと外出出来なかった」という声や「家で赤ちゃんと2人きりなので、とにかく誰かと会話をしたかった」という声が聞かれた。毎月3回程開催している『おしゃべりテラス』は、昨年度に引き続き母親2名にファシリテーターとして参加してもらい、母親同士気になっていること等を共有し情報交換を行える交流の場となったようだった。職員もこれまで以上に利用者への関わりを意識し、日々の会話や関わりを通して子ども達も保護者も安心して過ごせるような居場所づくりを心掛けた。

・イベントに関しては、感染拡大防止の観点から中止とせざるを得ないものもあったが、その時々状況を考慮しながら規模の縮小など工夫をして出来る限りのものを利用者へ提供した。公園事業の一つとして自治体や地域と一体となって例年開催していた『こい来いフェスタ』は、こいのぼり掲揚のみの実施となり、夏祭りは中止となった。夏祭りの代わりとして、館内では数日間に渡ってお楽しみコーナーを日替わりで設けて実施した。秋の寺山こどもまつりは天候不良の為、館内での実施となったが、地域のボランティアや子どもボランティアに協力を頂き開催することが出来た。公園では自治体や地域の方々によってチューリップの植え付け体験が行われた。また、ふゆまつりは規模を縮小して、ボランティアの学生に協力してもらい館内で実施した。

感染症対策を第一としており、例年のような大規模な催しではなかったが、コロナ禍で地域での交流の機会が限られているなか、子育て家庭にとって貴重な多世代の交流の場となったようだった。その他、『折り鶴プロジェクト』や『笑顔プロジェクト』等、これまでとは違った形の催しも実施した。普段遊びに来たときに参加できる内容で、集うイベントとはまた違った楽しさを感じてもらえたようだった。来期も柔軟な対応や積極的な取り組みを続けていきたい。

・利用者が安心して来館できる運営を第一に取り組んだ一年だった。そんな中、子ども同士の衝突による事故があり、大事には至らなかったものの、職員の見守り体制や低学年ひろばの利用対象などの見直しを行った。また、他施設の事故対応のマニュアルを読み込むなどして、職員全員で話し合いながら今後の対策に取り組んだ。利用者に安心して安全に過ごしてもらえるような運営を来期も引き続き行っていきたい。

総括・自己評価

・年間で 100,118 人の利用があった。全国的な新型コロナウイルス感染症の流行による影響もあって、前年度までと比べ利用者数は減少した。今期初めは臨時休館もあり特に少なかったが、一時コロナが少し落ち着いた頃から徐々に利用も戻ってきていた。年間を通してみると、初年度や昨年度に続き 10 万を超える利用者数となった。

・週末は例年並みの来館があり、1 日で 1,000 人を超えた日もあった。ただこれまでと異なり、利用者それぞれの滞在時間が短く入れ替わりが多かったため、1 日の利用者数が前年度とそう変わらない時も館内は密状況にならずに済んでいた。それでも賑わい始めた場合は、アナウンスや入場制限をかけながら対応した。公園内に併設されている施設ならではの利点も多く、屋外と行ったり来たり過ごすことで利用者数も程よく分散されていたようだった。来館者数が多い分、滞在時間の把握や消毒作業など、感染症対策にはかなり労力を要した。コロナ対策支援事業補助金を活用させてもらい、遊具の数を増やしてこまめに交換しながら消毒作業の負担を軽くするなど、工夫しながら感染症対策を徹底し続けることが出来たと思う。

・年間で 530 件の一時保育を実施した。コロナ禍による影響で初めは利用が少なかったが月を追うごとに増え、12 月からは 60 件を超える利用があった。3 月は 79 件と今期では最も多く、昨年度と比べてもほぼ変わらない利用の多さだった。年齢的には 1 歳児が圧倒的に多く、1・2 歳児の利用が全体の過半数以上となっている。初めての利用も多い。遊びに来た利用者とのやり取りのなかで一時保育を案内すると、その場で申し込む母親もいて、ひろばから保育に繋がっていることを感じられた。今後も保護者や子ども達の様子に寄り添いながら、ひろばと一時保育が備わっている施設の特徴を最大限に活かして支援に繋げていきたい。

・イベントに関しては感染拡大防止の観点から中止となったものもあったが、時間短縮や規模の縮小などを行いながら定例イベント等を実施した。その他、『折り鶴プロジェクト』や『笑顔プロジェクト』等、集まって実施するイベントとは違った形の催しも実施した。遊びに来た親子や祖父母の他、交流ゾーンを利用していた中高生などの参加もあった。コロナ禍で何かと制限の多い一年だったが、その中で出来ることを前向きに模索しながら様々な催し物を利用者に提供することが出来たと感じている。また、来期は地域の助産師から協力を頂き『おしゃべりテラス』を実施する予定となっている。今後も地域の方々の力を借りながら、地域全体で子育て支援に取り組んでいくための拠点の一つとなっていけるような運営を行っていきたい。

・今期は子どもボランティアの活躍も大きかった。夏頃から小学 5 年生の女子生徒 2 名が週末にボランティアとして来館し、読み聞かせや製作を積極的に行ってくれた。なかには利用対象年齢の時に遊びに来ていた小学生もいて、今でもボランティアという形で施設との繋がりを自発的に持ち続けてくれていることをとても喜ばしく感じている。子どもボランティアの存在も徐々に定着してきた。小学校低学年の子ども達が、子どもボランティアの姿を見て「私も早くボランティアやりたい！」と興味をも

っている様子も度々見られた。このまま良い連鎖が続いていけるようにしたい。

・今期で開設3年目を迎えた。開館当初から、生まれたばかりの子を連れて遊びに来てくれていた利用者のなかには、次年度から保育園や幼稚園に通い始める親子も多くいる。「い～てらすに救われました」「い～てらすに育ててもらえたように思っています」と話してくれた常連の母親たちの言葉は職員一同心に深く響き、子育て家庭にとってい～てらすが大切な居場所となっていること、そして子育て施設のもつ役割の大切さを改めて強く感じる事が出来た。4年目のい～てらすも子ども達や保護者、そして地域の方々にとって温かく安心できる居場所であるよう、利用者に寄り添った運営を続けていきたい。